

授業科目	発達アセスメント演習				単位	1		
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE31404J		
開講年次	3	開講時期	前期	該当DP	DP2-1 DP2-2 DP3-2 DP5-2			
担当教員	水貝 洵子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>臨床心理学においてアセスメントとは「臨床心理学的援助を必要とする事例(個人または事態)について、その人の人格、状況、規定因に関する情報を系統的に収集し、分析し、その結果を総合して事例の介入方針を決定するための作業仮説を生成する過程(下山、2008)」である。本演習では児童領域における心理アセスメントについて解説する。行動観察および臨床現場で用いられることの多い発達検査(新版 K 式発達検査)及び知能検査(ウェクスラー式知能検査、田中ビネー式知能検査)について講義や実習を行う。また心理アセスメントで得られた結果に基づいた発達相談の実際について解説する。本演習では、乳幼児健診や教育機関における心理臨床経験のある実務家教員が授業を担当する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 行動観察の技術の基本を身に着け、支援計画などの実践に活かすことができるよう努力を始める。 2. 各種発達検査や知能検査の土台となる理論を理解し、今後の学習に活かすことができる。 3. 各種発達検査や知能検査の土台となる理論と実際の検査項目との繋がりについて理解を深めることができる。 4. 検査結果の取り扱いについて考えを深め、実習等で活かすことができるよう努力を始める。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	35	15	0	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			35				35	
思考・判断 (DP2-2)			15				15	
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)					15		15	
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)								
技能・表現 (DP5-2)				35			35	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
行動観察や各種発達検査、知能検査の土台となる理論について正確に説明することができる。検査を取り扱うための意識や態度・姿勢を備えている。また自らの臨床実践に対する認識を深め、どのような臨床実践を行うことが必要なのかについて、考え出すことができる。				行動観察や各種発達検査、知能検査の土台となる理論について説明することができる。検査を取り扱うための態度や姿勢を意識することができる。また、そのポイントを自分なりに見つけだし、今後の臨床実践の参考にすることができる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)	

1	テーマ:オリエンテーション 乳幼児期、児童期における発達アセスメントの概要について解説を行う。	講義	該当箇所の復習	30
2	テーマ:発達アセスメントに関する諸概念 発達アセスメントを学ぶにあたり関連のある概念(生物心理社会モデル、ICFによる障害理念など)について振り返りつつ、発達アセスメントとどのような関連があるかについて解説を行う。	講義	該当箇所の復習	30
3	テーマ:行動観察 行動観察の定義、分類、行動関する際の視点などについて解説を行う。 映像を観ながら実際に行動観察を行うなどの実習を予定している。	講義 実習	該当箇所の復習	60
4	テーマ:発達検査1 発達の原則について復習したのち、発達検査全般の解説を行う。その後、遠城寺式乳幼児分析的発達検査について解説、実習を行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
5	テーマ:発達検査2 新版K式発達検査を取り上げる。新版K式発達検査の成り立ちや検査項目、実施方法について紹介する。結果の解釈について解説する。	講義 実習	該当箇所の復習	60
6	テーマ:事例検討1 遠城寺式乳幼児分析的発達検査および新版K式発達検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。解説のみならず、事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
7	テーマ:知能検査1 田中ビネー知能検査Vを取り上げる。検査の成り立ちや実施方法、解釈の仕方について解説する。	講義 実習	該当箇所の復習	60
8	テーマ:知能検査2 ウェクスラー式知能検査について、その基本的な知能に関する考え方、検査の成り立ち、検査の実施方法について解説を行う。	講義 実習	該当箇所の復習	60
9	テーマ:知能検査2 ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
10	テーマ:知能検査2 ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。	講義 実習	該当箇所の復習	60
11	テーマ:知能検査2 ウェクスラー式知能検査について、学生が検査実施の実技を行う。実施者以外の学生は、検査実施の様子を観察し、課題の意図や実施時の留意点について考える。	講義 実習	該当箇所の復習	60
12	テーマ:事例検討2 ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。解説のみならず、事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60

13	テーマ:事例検討3 ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。解説のみならず、事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
14	テーマ:事例検討4 ウェクスラー式知能検査によるアセスメントから支援へと展開した事例について紹介する。解説のみならず、事例に関する感想、考察についてディスカッションも行う。	講義 実習 ディスカッション	該当箇所の復習	60
15	テーマ:まとめ これまでの学習内容を振り返りを行う。まとめとして、心理アセスメント、発達アセスメントに関する注意点についても解説する。	講義	該当箇所の復習	30
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	発達心理学 I、臨床心理学概論、カウンセリング論、障害者心理学を受講していることが望ましい。			
テキスト	指定しない。			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『公認心理士の基礎と実践14ー心理的アセスメント』 野島一彦・繁柝算男(監修) 遠見書房 『子どもの理解と支援のために 発達アセスメント』 本郷一夫(編) 有斐閣選書 『新版 K 式発達検査 2001 実施手引書』 生澤雅夫・松下裕・中瀬惇編著 京都国際社会福祉センター 『田中ビネー知能検査 V』 杉原一昭・杉原隆監修 田研出版			

	『日本版 WISC-IV 知能検査法』 David Wechsler 著 日本版 WISC-IV 刊行委員会訳編著 日本文化科学社
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実際に検査課題の実施を体験してもらおう。技能を習得してもらい、授業内で実技の発表を求める。 また、事例検討などを通じ支援の在り方について積極的に考え意見を表明する姿勢が求められる。
達成度評価に関するコメント	レポート内容の詳細については授業中に指示する。 成績評価におけるレポート外の提出物は、授業毎に提出する質問感想シートや実習でのワークシートのことを指す。